

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	37	学校名	加茂農林高等学校
------	----	-----	----------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	地域と連携・協働した学びを推進する農業高校として 科学的な思考力、判断力、表現力を養う探究的な学びを通して 地域や産業の発展に貢献し、持続可能な社会を実現する人材の育成を目指す学校	
学校教育目標 (教育方針)	校訓「至誠勤労・質実剛健」の下、「いのちを育み そして いのちから学ぶ」をスローガンに、夢の実現を目指す生徒一人ひとりの良いところを見つけ、励まし支える教育を推進し、広い視野と高い志をもって地域社会に貢献できる人材を育成する。	
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> 思いやりと協働の精神を培い、自らの役割と責任を果たせる生徒 確かな学力とコミュニケーション能力を身に付け、自ら学び、自ら考え行動し、主体的かつ協働的に課題を解決していける生徒 産業人として必要な豊かな人間性を育み、地域社会や産業界に貢献できる生徒
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> 実践的・体験的な学習活動を通して学び、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人としての資質・能力を育成 主体的・対話的で深い学びを実践するプロジェクト学習により、科学的な思考力・判断力・表現力を養い、課題解決能力と実践力を育成 生徒一人ひとりの個性や長所を十分に伸ばす、個に応じた細かな指導の実施
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> 植物や動物を育てること、食や環境など本校の学習内容に興味・関心がある生徒 実験・実習などの実践的・体験的な学習に、意欲的に取り組める生徒 将来、食料供給・環境創造などの各分野について大学等で学習を深めたり、農業や関連産業で地域貢献しようとする生徒
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> 第4次岐阜県教育振興基本計画を進めるにあたり、本校の存在意義や期待されている社会的役割、目指すべき学校像を学校内外に対して分かりやすく示すことが求められている。 地域で活躍する産業人の育成の目標のもと、「ふるさと教育」の充実、地域との連携が求められている。 教員の働き方「時間外勤務時間月45時間、年360時間」が注目されているなか、多忙化の解消に向けて業務の精選が求められている。 	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学校経営	<ul style="list-style-type: none"> 「加茂農林で学べてよかった」と思わせる教科・生徒・進路の各指導を展開。 学習環境や職場環境の改善を図り、よりよいコミュニケーションを育むことができる学校を目指す。
	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 公開・研究授業やICTの活用や、授業規律の向上により「わかる授業」の実施。 学習評価の方法を変更したことにより生徒に適切な学習指導を行う。 HPや「すぐーる」などを利用し積極的な広報活動の実施。
	生徒指導	<p>広い視野と高い志をもって地域社会に貢献できる人材を育てるため、「豊かな人間関係を築き、地域社会人として考えて行動し、自らの夢に挑戦できる生徒」の育成を目指し、継続的な生徒指導を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 命を守り、生活を守る（交通安全の徹底（ヘルメットの着用推進）、生活安全の徹底（スマホ・ネット社会との関わり方、情報モラル） 生徒の自立を促す生徒指導（社会的自立（元気な挨拶、時間を守る、身なりを整える）、精神的自立（善悪の判断、思いやりの心、高い人権意識）
	進路指導	<p>「社会的・職業的な自立に必要な能力や態度」を育てるために、キャリア教育を踏まえた進路指導の充実を図る。</p> <p>①主体的で意欲ある進路活動に結びつかせるため、自己理解と職業の理解を深めさせ、将来地域で自分の力が発揮できる進路を考えさせる。</p> <p>②配置されたタブレットを利用した進路指導を工夫する。</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> 実習の安全、実習環境の改善 地域産業の担い手育成総合戦略事業の推進 難関大学への進学率を徐々に上げていく 	

年 度 目 標				年 度 末 評 価 (自 己 評 価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学校経営	①スクールミッションの広報と実現にむけ、各方面と協力し、具体的な活動方法を計画する。	施策IV-20	学校運営協議会での指導・意見集約	スクールミッションの実現に向け、その方策について学校運営協議会で意見を求めることができた。	B	生徒や保護者に向けた学校目標や目指す生徒像、スクールミッションなど、更なる広報活動が必要。	B
	②担い手の育成を目標とした地域連携の推進。	施策 I -4	今年度新たな地域連携事業を実施できたか。	地域探究型学習推進事業を始め、課題研究や部活動など、新しく地域と連携することができた。	A	地域との連携は各科それぞれの特色ある研究が進んでいる。部活動においても、地域と連携して行う活動が増えている。	
	③時間外勤務の軽減と業務の精選。	施策IV-27	時間外勤務時間とストレスチェックの結果	勤務の割振、8の日、早帰りの日を意識した時間外勤務軽減に向けた意識づける声掛けを行った。改善に伴いストレスチェックの回答が改善した。	B	昨年度より超過勤務となる職員の延べ人数が減少し、ストレスチェックの数値も良くなった。引き続き、より良い職場環境の構築に努力していく。	
学習指導	①公開・研究授業を通じ生徒の能力に応じた指導の職員研修を行う。	施策IV-23	昨年度の教職員の参加数との比較	昨年度より参観者数が増え、意見交流や、互いの指導方法を学ぶ機会が増えた。	B	授業の参観は授業改善につながるため年間最低1回は参観するよう呼びかける。	B
	②ICTを活用し生徒の理解を深める授業を展開する。	施策 II -9	ICT環境を活用できたか (学校評価アンケート)	生徒のアンケートの結果は約90%が『授業でICTを活用している』であった。	B	来年度から各自でタブレット端末を購入する。より活用するよう呼びかける。	
	③5段階法に変更した評価方法で生徒に評価の内容を適正に伝える。	施策IV-23	いろいろな面から学習の評価を行えたか (学校評価アンケート)	アンケートで多角的に評価されていると感じた生徒は86%であった。	B	導入に大きなトラブルはなかったが評価方法に慣れていく必要がある。	
	④HPの更新と「すぐー」を使用した諸行事の連絡を行う。	施策 I -7	保護者の学校理解は高められたか。 (学校評価アンケート)	保護者アンケートの約90%が『HPなどで積極的に情報発信をしている』だった。	A	来年度も今年度と同程度HPの更新やすぐーでの連絡を積極的に行いたい。	
生徒指導	①いじめ・人権に反する行動を見逃さない。規範意識の向上と問題行動の未然防止に取り組む。	施策 I -3	いじめ認定0件 問題行動事案5件以下	いじめアンケート(6・10・1月)、心のアンケート(5・9・11・2月)、担任による教育相談週間(4・9月)	B	いじめ認知7件うち認定1件 特別指導に該当する問題行動0件	B
	②交通ルール遵守の徹底、自転車等の安全運転を身につけさせる。	施策 III -19	ヘルメット着用率 15%	交通安全教室の実施、各クラス・全校集会等での啓発活動	B	交通事故14件 ヘルメット着用率10%	
	③スマートフォンやネット社会(SNS等)との適切な関わり方や、情報モラルを身につけさせる。	施策 III -19	情報モラル違反事案 0件	情報モラル講話の実施、各クラス・全校集会等での啓発活動	B	特別指導に該当する情報モラル違反0件 SNSを介したトラブル・相談は複数件	
	④教育相談の充実を図り、生徒個人や集団としてのより良い学校生活が実現できるようにする。	施策IV-23	教育相談室、サポートルームの有効活用	SC、S相の活用、担任等との連携による早期発見と支援体制づくり	B	教育相談との連携により、生徒の心の安定や教室復帰に繋げることができた。	
進路指導	①日頃からの挨拶や言葉遣い、他者と交流を意識させ、人間関係の構築の重要性を意識させる。	施策 I -1	挨拶や言葉遣いが、しっかりできているか。	進路ガイダンスにおいて、挨拶の重要性を毎回話し、誰に対してもきちんとした挨拶ができるようにしている。	B	誰に対してもきちんと挨拶ができるようになってきている。学校・PTAの協力により意識が高まっておりこの状態を継続させたい	B
	②1年：自己と地域産業の理解を深めさせ、自分に合った進路目標を描かせる機会を設定する。	施策 II -13	自己理解ができ、自分に合った進路目標ができたか。地域産業を知ることができたか。	進路ガイダンスにおいて、自分の長所短所、自己適性などについて考えさせ、三者懇談や教育相談時に考える機会を作っている。	C	懇談後に進路状況調査を担当が入力し、進路と学科職員他で情報を共有している。自己理解を深めている。LHR連携が課題である。	
	③2年：働く意義や職業、地域産業についての理解を深めさせ、具体的な進路目標を持たせる。	施策 II -13	働く意義や職業、地域産業について理解させ自分の適性を考えて進路目標を持たせることができた	進路ガイダンス、企業見学などを通して、業種と職種、企業理解を深めるさせ、2年次に進路方向を決めるよう促している。地域産業の説明が不足。	B	懇談後の進路状況調査内容から、2年生最後には概ね自分の進路の方向を出している。地域産業の理解と企業説明会等への参加が課題	
	④3年：個々に応じた進路指導を充実させ、地域で希望する進路の実現ができるようにする。	施策 II -13	自分にあった進路選択ができ、地元定着率がどうだったか。	自分に合った進路を考えさせ、様々な情報の中から主体的に考え、進路選択をさせ受験指導をしている。	B	自分にあった進路の選択を行い、概ね就職進学を決定させているが、進路選択が遅れなかなか決定できない生徒が増加している。	
その他	①事故防止に向けて定期的な注意喚起、安全マニュアルの見直し	施策IV-21	事故等の有無	12月実習中に生徒が怪我をする事故が発生した	D	同様の事故が起きないよう対策を検討し、対応方法についても教員間で共有する。	B
	②担い手育成総合戦略事業の計画に即した内容の実施	施策 I -4	外部委員の評価	地域探究型学習推進事業費の計画に即した内容を実施し、ほぼ計画通りに実施できた。	B	3学科がそれぞれのの特色を生かした活動が出来た。来年度は2学科が新規に実施	
	③四年生大学進学に向けた計画的な進路指導、資格取得	施策 II -14	進学率	4年制大学進学に向けた計画的な進路指導、資格取得により進学率や資格取得率向上	B	国立大学に1名が希望し、合格することが出来た。	

生徒・保護者対象の学校評価アンケートでは、学校運営に対して、概ね肯定的な意見が多い。また県教委が実施した生徒向けのアンケートでは、「入学してよかった」とほとんど生徒が回答しており、学ぶ内容も満足度が高い結果となっている。地域連携も、地域課題探究型学習推進事業を中核に農業科目「課題研究」において活発に行われている。また、自然科学部や硬式野球部、演劇部の活動の一環で地域と連携する事例も今年度から始まっている。

職員の職場環境の改善を図るため、今年度も引き続き業務の精選や早く帰ることを意識付けを行ってきた結果、昨年度よりも超過勤務者の月別延べ人数が減少した。また、ストレスチェックや疲労蓄積度調査の結果も昨年度よりも改善している。

一方で、生徒・保護者の学校目標に対する意識や学習活動に対する認知を更に向上させていく必要がある。そのため、ホームページなどの広報活動、すぐるを利用した保護者への連絡確認を来年度は充実させていく。また、地域連携についても、数ではなく本校の学びの目標に照らし合わせた内容を重視した連携に発展・精選していく必要がある。

やりがいを持って学習活動や特別活動の指導にあたる職員が多いが、そこに甘えず勤務時間の管理や業務の精選を心がけ、すべての職員が「働きやすい」職場を目指していく。

本校は、課題研究や特別活動の内容が多岐に渡っており、他者とコミュニケーションを図ることが得意な生徒が多く育っている。特に今年度は、英語スピーチコンテストへの挑戦や各学科、学科だけでなく部活動においてもコンテストに挑戦しており、生徒が成長し変わるきっかけになる活動を学校が多く持っていると感じた。一方でスマートフォンやAIの普及から、授業内での適切・効果的な活用方法など、AIに頼りすぎない学習内容を学校側も工夫していく必要がある。

早期の進路に対する意識づけがなされているが、3年間で学んだ専門的な知識・技術を卒業後の進路で生かしていけるよう、専門的な学習に更に取り組んでもらいたい。

安全教育について、自転車運転のマナーの徹底や、ヘルメットの着用率が上がるよう、保護者からも協力していただけるような働きかけを続けてほしい。

学校の評価アンケートの結果から、100%ではないが、ほとんどの生徒が本校の学びを楽しんでいることがわかった。先生方のストレスチェックの結果が良い結果であったが、今後もストレスの少ない職場を目標に環境づくりを続けてほしい。